

〈研究報告〉 昭和54年度学校経営 (B) 講座

小規模校における研究推進の一方策

北塩原村立裏磐梯中学校教諭 竹野 文 博

1. 研究の趣旨

本校は、山間へき地の小規模校で職員数も少ないが、何でも自由に話しあえるよさがある。この本校の特質を生かし研修活動を充実すれば、互いに切磋琢磨し、なごやかさにも厳しさのある研修となり、教師としての専門的な資質を高め、ともに協力しあって教育目標の達成がはかれるものと思われる。

なお、本校では昭和51年、村教委の研究指定を受け「少人数学級における学習指導の研究」をテーマとして、継続研究をすすめてきたが、研究の反省として次のような問題が指摘された。

- (1) 人数が少なく、研究を深めることが困難である。
- (2) 研究主題が広すぎて、どこから切りこんでいったらよいかわからない。
- (3) 研究内容や方法がよくわからない。

これらの問題を解決するために、校内共同研究の内容と方法を明らかにし、研修のための時間を十分とり、全員が積極的に意欲的にとり組めるように改善すれば、小規模校、少人数でも充実した共同研究ができるものと考え、この主題を設定した。

2. 見とおし

校内共同研究をすすめるにあたって、研究主題や授業研究についての問題点を集約し、問題解決をはかるように改善すれば、全職員の問題意識や必要感に支えられたものとなり、充実した共同研究になるであろう。

3. 研究の方法と対象

- (1) 研究の方法

- ① 共同研究のすすめかたについての文献研究
 - ア 研修のありかた
 - イ 授業分析研究のすすめかた
- ② 共同研究に対する意識調査
- ③ 改善策の立案と実践
- ④ 共同研究に対する意識についての変容調査

(2) 研究の対象

- ① 本校職員7名(執筆者をのぞく)
- ② 職員の本校在職年数

3年目	2年目	1年目
3	3	1

- ③ 本校職員の年代別構成

年代 性別	50代	40代	30代	20代
男	1	1	1	1
女			1	2
計	1	1	2	3

(3) 研究の手順

- ① 研究構想の策定 5, 6月
- ② 文献研究 6, 7月
- ③ 第1次調査の実施と分析 7, 8月
- ④ 改善策による実践 9~10月
- ⑤ 第2次調査の実践と考察
結果のまとめ 12月

4. 研究の概要と考察

本年度の共同研究計画は、4月の職員会に提案し原案どおり承認されたが、日が経つにつれ、真に生徒の実態をふまえているか、全職員に共通する課題となっているか等の疑問や意見が、ふだんの話の中にだされるようになった。本校に赴任して間もない時期でもあり、係として困惑したが小規模校のよさを生かし、研究主題を思い切って変えた改善案を6月の研究協議会に提案したところ、ようやく賛同の意見が得られた。

第1次調査は、共同研究に対する意識や、授業研